

今日のトピック 米国の金融政策(2014年10月)

QE終了を決定、「相当期間」の低金利維持は据え置き

ポイント1 予想通りQE終了を決定

QE終了後も資産規模を維持

- FRBは10月28日～29日のFOMCで、量的金融緩和策(QE)の終了を決定しました。今年1月以降縮小してきた資産購入額がいよいよゼロになります(10月までの月額は150億米ドル)。
- 今回の決定の背景として、物価上昇率が目標の年+2%を長期にわたり下回る可能性が小さくなったこと、雇用環境の改善など景気が全般に政策変更に必要な改善を示したことなどをあげました。

ポイント2

低金利政策を「相当期間」維持する方針を据え置き

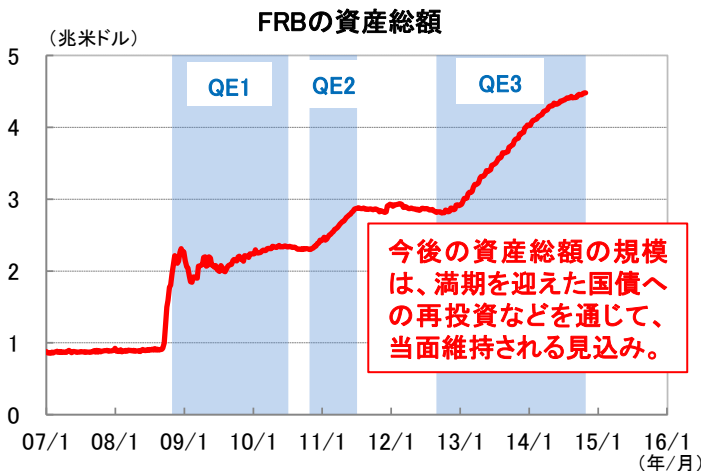
「ハト派」の度合いがやや弱まる

- 声明文では、「未稼働の労働資源は徐々に減少している」と、雇用環境の判断を一步前進させました。ただし、雇用、物価、金融市場に関する幅広い情報を考慮すると、現在の低金利政策をQE終了後も「相当期間」維持することが妥当とする方針は据え置かれました。
- 市場は、雇用に関する声明文の変更などから、今回の決定を「ハト派」の度合いがやや弱まったと受け止めたようです。ただし、これまでの来年半ば以降の利上げ開始の予想に大きな変化は見られません。

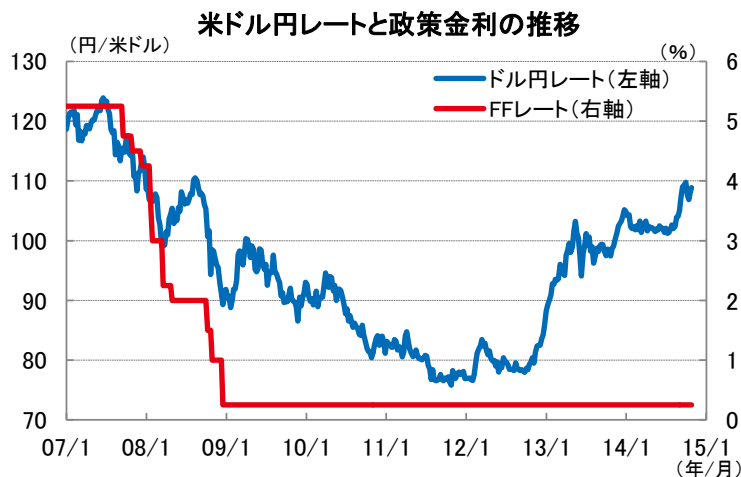
今後の展開

2015年半ば以降の利上げ開始見通しに大きな変化はなし

- 「ハト派」の度合いがやや弱まったと受け止められたため、米ドル円レートは1米ドル109円台に円安米ドル高が進みました(日本時間の14時30分現在)。今後の米国景気の拡大や金利上昇を織り込んだ動きと見られますが、日米の金融政策の方向性の違いも今後の円安米ドル高圧力になると考えられます。



(注)データは2007年1月3日～2014年10月29日。週次データ。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1)データは2007年1月5日～2014年10月29日。週次データ。
(注2)2008年12月以降のFFレートはターゲットレンジ0.00%～0.25%の上限を表示。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2014年10月29日【キーワード No.1,443】量的金融緩和(QE)(グローバル)

2014年10月22日【デیلیー No.1,974】最近の指標から見る米国経済(2014年10月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。